

硫黄鳥島(平成 16 年(2004 年) 年報)

○平成 16 年の活動概況

硫黄鳥島(27.88° N、128.22° E)の南東約 65km にある沖永良部島の住民から 7 月 30 日午前中同島で硫黄臭が感じられたとの通報がありました。当時上空では北西～北北西の風が吹いており、硫黄鳥島の火山ガスが上空の風に流されて発生した現象であった可能性があります。

○硫黄鳥島の概要

硫黄鳥島は、那覇市の北北東約 190km、沖永良部島の北西約 65km に位置する火山島で、複数の火口からの噴気活動が認められています(図 1、2)。有史後の噴火はいずれも爆発的で、20 世紀中には 1903 年、1959 年、1967 年及び 1968 年に噴火しました。1903 年の噴火に際しては全島民が一時久米島に移住し、一旦帰島したものの 1959 年の噴火で再度全島民が島外に移住しました。1967 年の噴火で硫黄採掘者も撤退し、現在は完全な無人島となっています。

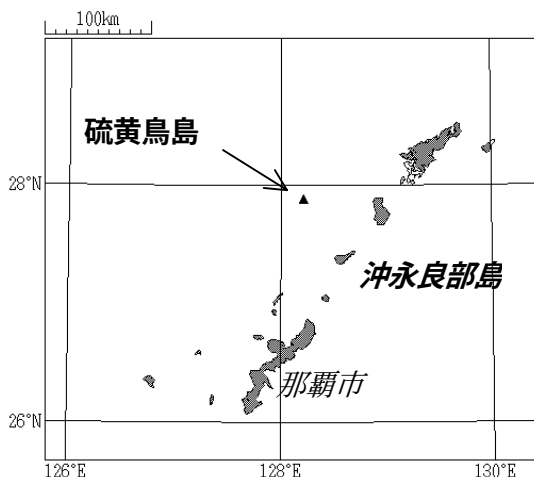


図 1 硫黄鳥島 硫黄鳥島の位置

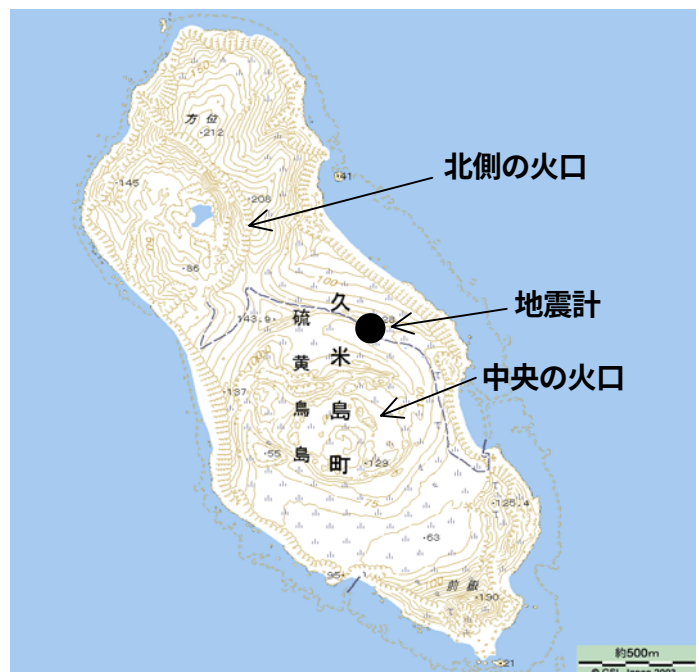


図 2 硫黄鳥島 硫黄鳥島の地形

○主な事象

硫黄鳥島の南東約 65km にある沖永良部島の住民から、7 月 30 日午前中同島で硫黄臭が感じられたとの通報がありました。また、8 月 3 日夕方、同島から硫黄鳥島の方向に噴煙が見えたとの目撃情報もありました。

8 月 4 日に海上保安庁が上空から硫黄鳥島の観測を実施したところによると、島の北側及び中央部の噴気孔から白色の噴煙が上がっており、うち北側の噴煙は火口縁上の高さ約 400m まで上がっていました。島の周辺の海域に変色水は見られませんでした。

その後、海上保安庁が 8 月 6 日行った観測では、依然噴煙が見られましたが(図 3)、8 月 23 日には噴煙活動は非常に穏やかな状態になっていました。さらに、11 月 9 日に行った観測では、噴煙は見られませんでした(図 4)。

沖永良部島での硫黄臭については、7 月 30 日、硫黄鳥島上空では北西～北北西の風が吹いており、硫黄鳥島の火山ガスが上空の風に流されて発生した現象であった可能性があります。



図3 硫黄島 2004 年 8 月 6 日の航空写真
主な噴煙は北側の火口から噴出
(海上保安庁提供)



図4 硫黄島 2004 年 11 月 9 日の航空写真
写真は北側の火口 噴気は見られない
(海上保安庁提供)

○地震活動

硫黄島では、7 月より、気象研究所と東京大学地震研究所が共同して地震観測を実施しています（図 1）。7 月からの火山性地震活動の推移を図 5 に示します。

火山性地震の活動は消長を繰り返していますが、**全て極めて規模の小さいものです。**

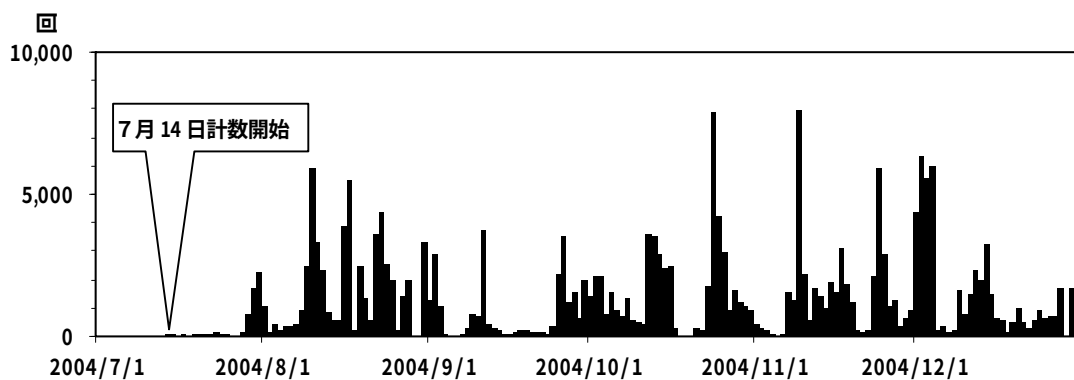


図5 硫黄島 火山性地震日別回数（自動計数）（7 月 14 日～12 月 31 日）